

公益社団法人日本リハビリテーション医学会

平成27年度 第4回理事会 議事録

日時 平成27年9月26日(土) 12時00分～15時30分  
場所 都市センターホテル スバル  
構成員 理事20名、監事3名  
出席者 理事長 水間正澄  
副理事長 才藤栄一 出江紳一 安保雅博  
理事 浅見豊子 石川 誠 久保俊一 上月正博  
近藤和泉 佐浦隆一 志波直人 島田洋一  
菅本一臣 千田益生 椿原彰夫 道免和久  
芳賀信彦 正門由久  
監事 朝貝芳美 木村彰男 田島文博  
事務局幹事 川手信行  
専門医会幹事長 大串 幹  
第53回学術集会幹事 池田 巧  
欠席者 理事 白倉賢二 帖佐悦男

議 題

I 報 告

(1) 業務執行理事会報告

水間理事長から平成27年度第4回業務執行理事会(Skype会議)の報告があった。

(2) 会員現況報告

水間理事長から会員現況の報告があり、医師以外の会員の入会を勧めるよう依頼があった。

(3) 選挙管理委員会報告

芳賀理事から第1回選挙管理委員会議事概要に基づき、代議員選挙に向けた活動が始まった旨の報告があった。なお、前回代議員選挙において代議員がいない県が生じたことを受け、選挙制度検討委員会から地方会を通じて空白が生じないように会員に向けたメッセージを送ることについての提言があったが、選挙管理委員会の審議の結果、選挙事務を行う選挙管理委員会が声明を出すことは馴染まないことから選挙制度検討委員会から地方会代表幹事に向けて声明を出すよう要請があり、理事会はこれを了承した。

(4) ISPRM 実行委員会報告

才藤副理事長から、ISPRM2019の開催に向けて、次のような観点で準備を進めていくとの報告があった。

①2019に向けて、毎年5,000千円を積み立て、さらに活動費として毎

年 2,000 千円を予算化したい。次回委員会で検討し理事会に予算要求する。

②国際学会の運営にはケネスとの調整及び契約が必要となるため、会計顧問、顧問弁護士にも加わってもらい検討をしていく。

③ISPRM2019 の運営会社は、国内学会の運営会社を選定したい。

④広報活動のために、ISPRM2019 のロゴ入り名刺やポスターを作成する。

⑤実行委員会の組織を拡張し、実質的な運営組織を立ち上げる。次回委員会に提案し、理事会にも諮っていく。

⑥関連学会との関係を強めていく。

続いて才藤副理事長から、資料 4 に基づき ISPRM 招致準備経費の収支について報告があった。

#### (5) 寄附金受入れ状況報告（6・7月分）

安保副理事長から、学会誌に挟み込んだ寄附金振込依頼書を使った会員からの 6・7月分寄附金受入れ状況について報告があった。

#### (6) その他

##### ①全国リハビリテーション医療関連団体協議会

水間理事長から第 3 回及び第 4 回会長会議の報告があった。

##### ②大規模災害リハビリテーション関連団体協議会（JRAT）

水間理事長から、茨城の災害の際に JRAT の連携が必ずしも十分ではなかったため、JRAT では臨時の会議を開催し問題点を検討した。この中でリハドクターの支援が必須であるとの報告がなされた。このためリハ医学会内に、JRAT との連携を図るための委員会等の組織を設置する必要がある、次回理事会に提案したい旨の報告があった。

##### ③内閣府立入検査について

事務局長から 12 月 24 日（木）に内閣府公益等認定委員会の立ち入り検査が行われる旨の報告があった。

##### ④厚労省平成 27 年度介護報酬改定効果検証調査委員就任について

水間理事長から、厚生労働省から理事長が「平成 27 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査」の委員に就任するよう要請があり、受諾した旨の報告があった。

## II 重要審議事項

### (1) 新専門医制度について

芳賀理事から、新専門医制度に関する現時点での検討状況について次のように説明があり、審議が行われた。

#### ①公表している研修プログラム整備基準の改訂

(1)専攻医が研修期間中の一定期間、基幹研修施設に勤務することを義務付ける。

(2)回復期リハビリテーション病院への勤務を義務化する。

この2点について説明があり、審議の結果、基幹研修施設への勤務の義務化は原案どおり承認された。

回復期リハビリテーション病院への勤務の義務化は、教育の観点から回復期病棟における研修にもリハ医学会が関与することが重要であり、義務化には異論がない。しかし、勤務期間については、3カ月は最低の期間であり、そこに専門医、認定臨床医の常勤区分で差をつけるのは混乱する可能性があるため、全て3カ月とする必要があるとの結論になった。なお、文面修正については専門医制度委員会に一任した。

②10月9日(金)に、基幹研修施設代表者を対象に新専門医制度におけるリハビリテーション科領域専門研修プログラム説明会を開催すること及び11月29日(日)の専門医会学術集会終了後に会員向けの新専門医制度説明会を開催する旨の説明があり、了承された。

③研修プログラム公表のタイムスケジュールについて、予定より機構での作業が遅くなっており、11月～12月に研修プログラムの募集、来年夏前に確定し専攻医に公表される。その後来年9月から再来年1月にかけてできたところから専攻医の公募を行っていく予定であるとの説明があった。

### III 審議事項

(1) 平成27年度後期各種委員会委員の推薦等について

水間理事長から、平成27年度後期の各種委員会候補の推薦について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認され、10月1日付で委嘱を行うこととした。

(2) 第53回学術集会準備状況及び収支予算案について

久保理事(第53回学術集会会長)及び池田第53回学術集会幹事から、第53回学術集会準備状況及び収支予算案について説明があった。特に、特別講演については理事にも協力していただくこと、海外招聘講演は資料に記載した後援より増加すること、共催セミナーについては35程度まで増やす予定であることの補足があった。また、関連学会との共同企画を検討しており、臨床整形外科医会も含めて承認願いたいとの説明があった。更にISPRM2019のバックアップのための取り組みや収支予算面でもISPRM準備の予算確保を狙っている旨の説明があった。これらについて審議の結果、原案のとおり承認された。

(3) 第56回学術集会会長候補について

水間理事長から、8月31日までに推薦があった道免理事を第56回学術集会会長候補者として内定したい旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。なお正式な会長就任は、来年の代議員総会での承認後となることが確認された。

(4) 学術集会のあり方検討委員会について

水間理事長から、前議題で承認された道免理事を加えたメンバーで学術集会のあり方検討委員会を立ち上げることの提案があり、承認された。引き続き、委員会で検討すべき課題について、今後1～2回の委員会で取りまとめる方針であることを含めて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。なお、木村監事から、学術集会が開催されればその都度新たな課題が出てくることから、この委員会を理事長直轄の常設委員会とすべきとの意見があり、検討することとした。

(5) 理事長直轄委員会等の再整理及び関連団体担当者について

水間理事長から、現在立ち上がっている理事長直轄委員会を再整理し、財務委員会及び専門制度委員会を常設の特別委員会とすること、期限付きの理事長直轄委員会と期限を確認すること、特別委員会に位置付けられているシステム委員会を総務部に移動することなどについて説明があり、審議の結果、学術集会のあり方検討委員会については今後特別委員会に変えていくことを含めて承認された。これに伴い、関連規則の改正案を次回理事会に提案することとした。

また、大規模災害に対応するリハ医学会の内部委員会の設置について、次回理事会に提案するとの説明があり、了承された。

続いて、現在の関連団体担当者について確認を行った。

(6) 全国医学部リハ科責任者連絡会（仮称）について

水間理事長から、今年春に行ったりハ科責任者調査リストを基に、今後全国医学部にリハ科講座の設置を目指すことなどを検討する全国医学部リハ科責任者連絡会（仮称）設立準備会を11月28日開催することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

またこの連絡会（仮称）は、第53回学術集会の際に第1回会合を持ちたいとの説明があり、代議員総会当日、代議員懇親会の前に開催することで調整を行うこととした。

(7) 平成28年度各種委員会活動計画・予算調書について

安保副理事長から、平成28年度各種委員会活動計画及び予算調書を、事業計画及び予算調書のポイントを十分に考慮し、11月末までに提出するよう依頼があり、了承された。なお、依頼は事務局から10月1日に各理事に対し別途通知をし、担当理事がそれぞれ委員長に十分趣旨を説明してもらうよう要請があった。

(8) 理事会への地方会オブザーバー参加について

水間理事長から、昨年3月の理事会で、選挙制度の改正に関連して理事が空白となる地方会については理事会へのオブザーバー参加を認めることとしたが、この実施時期について地方会から質問があったことから、議事録抜粋にある通り、オブザーバー参加は次回選挙以降とすることを確認した。

(9) 海外特別助成（5th AOCPRM）について

佐浦理事から、27年度予算編成時に28年度開催と予定していた5th AOCPRMが今年度中に開催されることになり、その派遣費用（50万円）を国際委員会予算の内部流用で行いたい旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(10) リハ・サミットについて

欠席の帖佐理事に代わって水間理事長から、リハ・サミットにおける専門医・認定臨床医生涯教育単位を認める依頼について説明があり、審議の結果、1-fの関連学会としては認めないが、2-cとして2講演各10単位を認めることとした。引き続き、リハ・サミット宣言文については、事前に役員の意見を求めたが特段の意見がなかったことから、原案の修正がない旨リハ・サミット実行委員会に回答することとした。

(11) 学会誌特集企画について

道免理事から、リニューアルする学会誌特集企画について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。なお、第9号以降の特集については、各理事が道免理事に申し出ることとした。引き続き、リニューアルする学会誌の表紙デザインについて数種類の提案があり、審議の結果、3例目の表紙デザインを導入することとした。なお、文字フォントについては委員会で修正を検討することとした。

(12) 学会誌の広告について

道免理事から、過去の学会誌の広告掲載の状況について、企業から掲載依頼が無かった巻号の広告が無料で掲載されていたとの状況が報告され、各理事が関連企業に広告掲載の要請を行うこととし、企業の一覧を道免理事が作成し、各理事に割り当てることとした。

(13) システム委員会内規案について

近藤理事から、これまで整備されていなかったシステム委員会内規案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認され会則検討委員会に附議することとした。

(14) 医師以外の正会員の入会について

上月理事から、医師以外の正会員の入会審査について説明があり、審議の結果、原案のとおり、元橋靖友先生及び吉野智佳子先生の入会が承認された。

(15) 会員の入退会について

才藤副理事長から入退会者の説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。なお、今年度会費滞納による資格喪失者177名については、再入会の申請に基づき10月1日に会費の入金が確認できれば、代議員選挙有権者となれることの補足説明があった。

(16) 社会保険等委員会関係

石川理事から、回復期リハ専従病棟医師研修会アドバンスコースの報告

があり、この研修会は毎年実施する必要がある旨説明があった。  
また、10月には在宅生活期リハ研修会が開催される旨の報告があった。  
さらに、全国リハビリテーション医療関連団体協議会が9月30日付で厚生労働省に提出する平成28年度診療報酬改定におけるリハビリテーションに関する要望内容について説明があり、変更や追加の意見があれば石川理事に直接申し出ることとした。

(17) 27年度専門医試験特別委員候補(案)について

芳賀理事から、平成27年度専門医試験特別委員候補者について説明があり、新専門医制度を控えて受験者が増加することを想定し人数を増やしているが、受験者数が確定した段階で調整があることを含めて、審議の結果、原案のとおり承認された。

(18) 資格認定委員会

①指導医の新規認定について

浅見理事から指導医の新規認定について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(19) 施設認定委員会関係

①研修施設の新規認定について

椿原理事から研修施設の新規認定について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

②研修施設の資格喪失について

椿原理事から研修施設の資格喪失について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

(20) 2-f(初回)項目による生涯教育単位の申請について

正門理事から5件の生涯教育単位の申請について説明があった。このうち2件は、教育委員会での審議で結論を得ることができず理事会に直接審査を依頼されたものであり、審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、今後生涯教育講演認定規則について見直しの検討を行う旨説明があり、了承された。

(21) その他

①後援・協賛について

才藤副理事長から後援・協賛について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

②第93回日本生理学会大会との連携シンポジウムについて

水間理事長から、第93回日本生理学会大会から、リハ医学会との連携シンポジウムを開催しリハ医学会会員に講師を依頼したいとの要請があったが、講師には旅費、謝金が支給されないとの条件であったことから業務執行理事会で本人の同意を確認し承認した旨説明があり、了承された。

③学術集会準備資金貸付取り決め改正案の修正について

事務局長から、前回理事会で修正が承認された学術集会準備資金貸付  
取り決めについて、専門医会学術集会が来年度で終了することから専門  
医会学術集会への適用を附則に規定し、「学術集会」の文言を再整理し  
た修正案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。  
なお、「学術集会」の名称が変更となる予定であることから、この取り  
決めの表記もその際に修正することが了承された。

④診療ガイドラインの Minds モバイルへの掲載について

近藤理事から、Minds ガイドラインセンターから本医学会で編集した  
ガイドラインをモバイル版に掲載するよう要請があり、期限が迫ってい  
たことから業務執行理事会で事前承認をいただいた旨説明があり、了承  
された。

#### IV 報告事項

(1) 各種委員会報告

平成27年7月11日から9月24日に開催された以下の委員会につ  
いて、担当理事から報告があった。

- |            |           |
|------------|-----------|
| ①編集委員会     | 道免理事      |
| ②評価・用語委員会  | 志波理事      |
| ③教育委員会     | 島田理事      |
| ④試験委員会     | 芳賀理事      |
| ⑤障害保健福祉委員会 | 久保理事・菅本理事 |
| ⑥広報委員会     | 千田理事      |

(2) 専門医会報告

大串専門医会幹事長から、第10回専門医会学術集会プログラム、各  
SIG 活動、第11回専門医会学術集会開催準備状況について報告があった。

(3) RJN 報告

浅見理事からインタビュー企画、リハ科専門医の仕事企画及び今後のイ  
ンタビュー企画について報告があった。

(4) 会則取り決めの改正について

上月理事から、会則検討委員会において8月31日付で改正した会則取  
り決めについて報告があった。

(5) リハ医学会 HP のバナー変更について

千田理事からリハ医学会 HP トップページバナーの変更について報告が  
あった。

(6) 実習研修の実施要領に関する申し合わせの改正について

正門理事から、教育委員会で申し合わせの改正を行い会則検討委員会の  
審議を経た「実習研修の実施要領に関する申し合わせ」について報告があ  
った。

(7) 2-f (2回目)、2-g 項目による生涯教育研修単位の申請について

正門理事から 2-f (2回目)、2-g 項目による生涯教育研修単位の申請について報告があった。

(8) 2-e 項目による生涯教育研修単位の申請について

正門理事から関連学会で行われる教育講演による単位の申請について報告があった。

(9) 病態別実践リハ研修会について

正門理事から平成27年度病態別実践リハ医学研修会(骨関節障害)について報告があった。

(10) 臨床研修医等医師向けリハ研修会について

島田理事から臨床研修医等医師向けリハ研修会について報告があった。

(11) その他

① 地方会開催と関連学会との日程の確認について

水間理事長から、地方会を開催するに当たっては、関連学会の開催動向を十分に把握して開催日を決定して欲しい旨要請があった。

② GSK とのタイアップ企画(脳卒中後遺症のリハビリテーションに関する疾患啓発記事の新聞掲載)について

水間理事長から GSK から疾患啓発企画の要請があり、受諾した旨の報告があった。

③ 学術集会運営会社の選定について

水間理事長から、2017年秋季学術集会(菅本会長)及び第55回学術集会(浅見会長)の運営会社について、複数の会社からの見積もり及び会計顧問立合いでのヒヤリングなどを実施し、それぞれの会長と協議した結果、両学術集会とも、日本コンベンションサービス(株)に決定した旨の報告があった。

④ Web 会議システムの運用テストについて

事務局から、業務執行理事会で利用している Skype の接続状況が不安定であることから、理事会にも協力いただきリハ医学会で導入している Web 会議システムの接続テストを実施したい旨依頼があり、了承され、追って、日程調整を行うこととした。

⑤ 臨床心理師の国家資格化について

椿原理事から、臨床心理士が国家資格化されたとの情報があり、リハ医学会から日本心理研修センターに試験・登録機関となった際にはリハビリテーション教育の質的・量的拡充を行うよう要請した経緯があることから、試験・登録機関への早急に働きかけを行う必要があるとの発言があり、事務局から同センターに連絡を取ることにした。

以上